

国家試験合格への秘訣！！

- 今回は、外国人看護・介護士候補者の国家試験結果を基に、「なぜ、合格率が毎回低いのか」そして、「なぜ、十分な学習時間を与えても合格できないのか」などを分析した。
- また、そのような実態の中で、弊社が行っている【国家試験受験能力到達度試験】参加者は、「なぜ、毎回高い合格率を推移して、今回は全員合格できたのか」、さらに「その合格の秘訣は何なのか」を紹介するための特集を組んだ。

I、【秘訣その1】 「受験者の言語能力にあった教育をしたこと」

出典：厚労省

- 1、一般の受け入れ機関は、入職時に「受験者の言語能力チェック」を客観的に行って、その言語能力到達度を見極めていない。

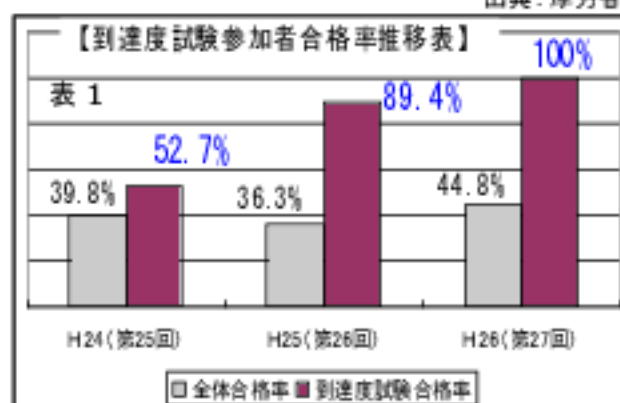
さらに、国語教育的な、そして、大雑把な教育を行った結果、受験者にとっては、自分の日本語力ではその教育内容が理解できない。そのため、「ただ、ただ、覚えることに終始する姿勢」を身につけてしまう。このことは、今後の試験日までの教育姿勢に大きな悪影響を与えて、不合格者を増やしている原因になっている。

- 2、【到達度試験参加者】は、入職時に「13項目の言語技能チェック」の構文式試験を受ける。

その結果は、今後の教育指導に関わる考察表で、数値化されて、誰にでも理解できるように受験者の「現時点の言語能力到達度」を、客観的に把握している。

1、教育は科学なり

言語教育は、人間の言語能力を高めるための教育だということを認識すべきだ。
よって、誰もが理解できるような論理的な思考性が身につけば、「自学能力」がつく。



- 3、受験者の「現時点の日本語力を把握する」ことにより、受験者の能力に合わせて教育指導をすることが可能となる。その結果、受験者の理解力が高まると同時に、「学習意欲と日本語に関する関心度が深まる。」

さらに、教育指導は客観的な指導ができるために、受験者への指摘などに関しても、受験者自身が納得でき、指導に対して、素直に従うこととなる。そのため、結果的に、教育効果が出て、受験者自身もそれを自覚できることが、「学習の継続力」となり、合格への道を進む原動力となる。(表1 参照)

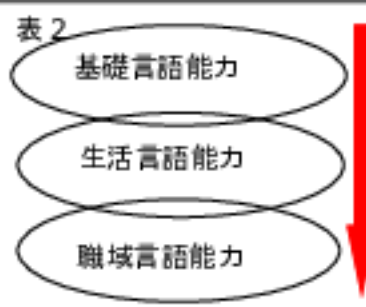
II、【秘訣その2】 「段階的に言語能力を高める計画を実施したこと」

- 1、一般の受け入れ機関は、受験者の言語能力に対して、表2のような区分すらできないのが実態だ。そのために、「さかさまの教育をしている」ことが、表2を観るとよく理解できる。

即ち、入職直後から「日本語力はいらない」とか、「書けなくてもいい」などの声を多数聞かされるが、「基礎言語能力が無いままに職域言語能力が成り立つ訳がない」という原理原則が無いままに教育している。

- 2、【到達度試験参加者】は、【三つの言語能力を段階的に学ぶ】ということを実践していく。

即ち、人間が言語を習得していく過程を素直に経て、「易しい言葉から難しい言葉」に移行する。その結果、受験者の日本語に対する抵抗感を和らげて、学習意欲をそぐことなく、試験日まで継続することができる力を養っている。



Ⅲ、【秘訣その3】「日常業務をさせながら、自学させたこと」

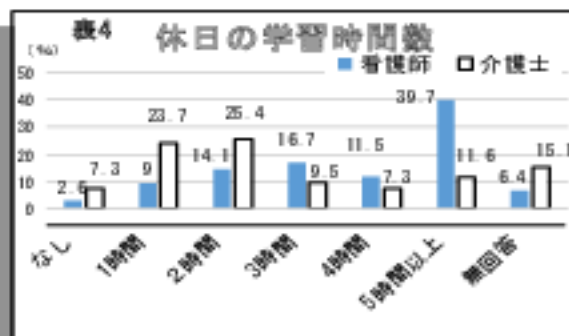
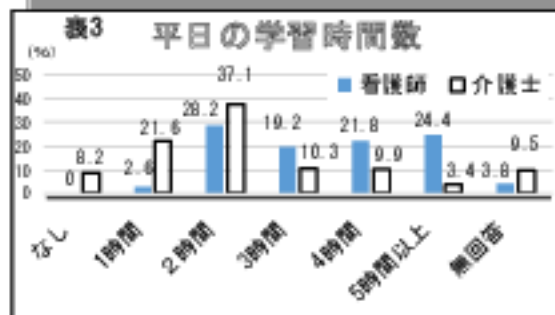
出典：ビマコンク資料

- 1、一般の受け入れ機関は、日本語力が無いために、業務をさせることなく、受験対策学習や、在籍しながら日本語学校・専門学校通学や、半日以上の上集中学習などを行っている所が多い。

表3と表4は、受験者の学習時間量を表したもののだが、特に、表3の「平日の学習時間数」は、看護では毎日3時間以上が65.4%を占めており、介護では23.6%を占めている。その中で、看護では5時間以上が24.4%、介護では3.4%もあることが判明した。

- 2、「休日の学習時間数」は、看護では3時間以上が67.9%で、介護では28.4%を占めている。特に、看護は5時間以上が39.7%もあり、また、介護は11.6%を示していることを考えると、休日に受験者が学習している割合は非常に高いことが判明した。

しかしながら、看護の「平日・休日の学習時間数」は、非常に多いものでありながら、毎回の国家試験合格率は10%未満であることを考えると、看護の教育指導のあり方に大きな疑問が生じる。



- 3、【到達度試験参加者】は、入職直後より全員に業務を与えて、同国人同士にならないように分離し、日本人との意思疎通ができるように努力させる。

また、勤務時間内での特別な学習時間は設けず、勤務時間外にさせる。

賃金に見合う労働を義務付けて、その労働に対する責任感を養うことが大切だ。経統的な学習は【自学能力を養う】ことにあり、日本語に対する関心と自信を、日々高めさせる。

2、言語習得は体得させるべし

外国語の習得の基本方法は、基礎言語力は身体で感じとって、その「言葉の意味を習得していく」ことが、基本にあることを認識すべきだ。即ち、習得した言語を実践で使える能力を養わなければ、「宝の持ち腐れ」となる。

Ⅳ、【秘訣その4】「体系的に作られた教材で学習したこと」

- 1、一般の受け入れ機関は事業団教材を使って、入職直後から【秘訣その3】で表した学習時間量を割いているにも関わらず、合格率は表1のような結果でしかない。その原因は、学習現場では「日本人の5~6歳児に介護・看護専門学校の教科書を渡して、無理やりに読ませている」状態がある。
- 2、【到達度試験参加者】は、言語習得過程に合わせて作られた教材を使用している。即ち、教育段階を3段階に区分して、A基礎教育、B初級教育、C中級教育と段階を経ながら「難解な日本語の習得力」を養っていく。その結果、日本人と同等の言語力を養えて、国家試験合格能力が身についた。

この矛盾には、誰もが気づくはずだが、事業団をはじめ、その教材を使って学習させている受け入れ機関は、何も気づいていない。なぜ、気づかないのだろうか。現場の声の一つ目は、「事業団が一方的に大量の教材を送りつけて来るから」二つ目は、「事業団はお国の機関だから」と錯覚して、使わなければいけないと思い込んでいるからだ。

3、易しいものから難しいものへ

日本人の中学1年生の英語力で、アメリカンアカデミーの本を読めと言われたら、あなたはどのように。言語教材とは、「易しいものから難しいものへの原則」がある。飛躍して言語能力以上のものを、無理やりに学ばせることは、持っている言語能力が機能しないために、「新たな言語知識を学べない」ということを知るべきだ。

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い諸技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は、平成 24 年度国家試験で受験者数 95 名中 36 名が合格し、その 36 名中 19 名 (52.7%) がこの【到達度試験】を受けた受験者でした。 25 年度では、128 名の国家試験合格者のうち、【到達度試験】参加者は 76 名で、合格者は 68 名 (89.4%) でした。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で働く人間として必要な言語能力を養うことを重要視した学習方法です。 さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、病院や介護施設などで実践力のある要員として育成することを目的としています。 定期的試験結果を数値化し、職員に指導の仕方を考察票でお送りしておりますので、安心してご指導頂けます。 是非、ご参加下さい。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職業言語能力を養う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」(漢字 熟語)と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 (語彙力・文意力)に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生活言語能力を養う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基礎言語能力を養う
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字(ひらがな・カタカナ・ 漢字)・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回		受験者の現状の日本語能力を観る。		

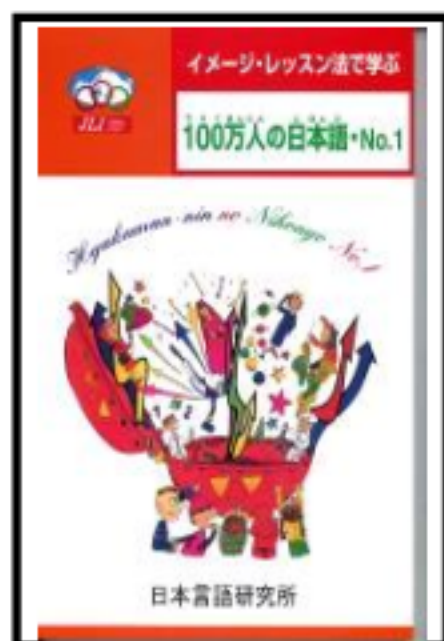
自学能力を養うための 適切な教材！！

- ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
- ③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている

スカイプ・教材の問い合わせ先
ことばの研究社
電話：086-431-3481
FAX：086-431-3482
岡山県倉敷市庄新町 9-4-12

主教材

基礎言語能力レベル

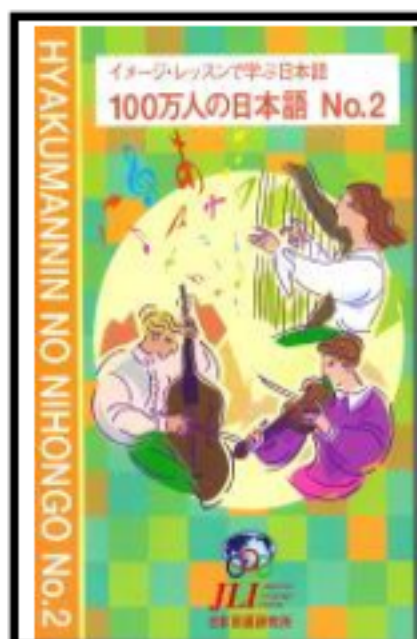


【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

ひらがな・基本漢字の習得とともに、全ての言語活動の基本となる概念を形成し、名詞文・存在文・普通動詞文を無理なく学習できる構成となっています。(2805 円)

※ 習得漢字数 310 字～620 字

※ 習得語彙数 520 語～1500 語



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

会社や学校、家庭内などあらゆる場面における会話文を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。また、形容詞文学習により心情・語感表現力の基礎を築きつつ、各ページのコーナーで日本語のあらゆる規則性と用法を自学できます。(2805 円)

※ 習得漢字数 420 字～840 字

※ 習得語彙数 570 語～1,710 語

生活言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

日本社会に適應できる人間関係を理解して、目上の人に対する礼節を保つ表現力が身につきます。

論理的に文を組み立てた長文が書けると同時に、漢字熟語を使った要約文を書けるようになります。

仕事に関連する語彙を自分で辞書を引いて調べることができます。(3,300 円)

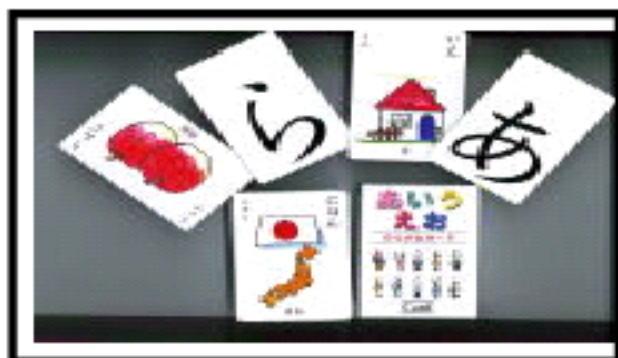
※ 習得漢字数 850 字～1,700 字

※ 習得語彙数 1,110 語～3,330 語

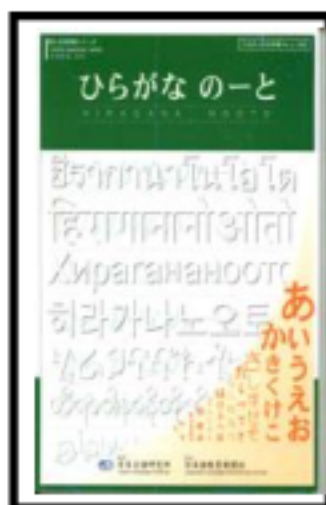
使ってみてビックリ！
教育効果の高さ
副教材

基礎言語能力レベル

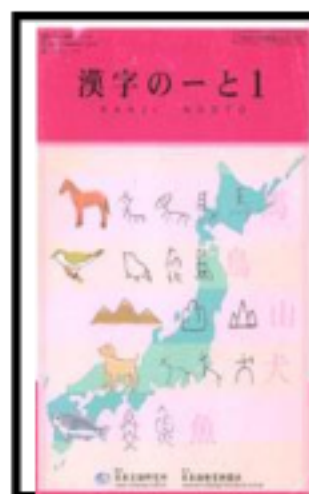
手が掛からずに、
受験者だけで勉強できる教材



表面にはひらがな文字が一文字ずつ書かれており、裏面にその文字を使った語のイラストが色彩鮮やかに描かれています。
イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら自学できるつくりになっています。基礎教育の日本語学習者に最適な内容になっています。
(1,155 円)



ひらがな文字の自学に最適な教材です。字形、書き順などの練習だけでなく、全ての日本語の基礎となる「しつもとこたえ方」に絶対必要な発話方法を、身近な事例を使って学習できるようになっています。社会生活に必要な最低限の語彙も同時に習得し、定着できるように作られています。
(1,980 円)



『100 万人の日本語 No.1』に沿った構成となっており、文型・成文の習得をしながら効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。
非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適。
また、中国人学習者にも同様です。
(1,496 円)

生活言語能力レベル



カタカナ語彙を使った場面を表すイラストが各ページにあります。このノートは説明文と会話文が織り成されています。この場面を紹介する文は、外来語の理解とその言出し練習をしながら、練習問題によって読解力と文型の応用力を養えるようになっています。
(1,496 円)



『100 万人の日本語 No.2』に沿った構成となっており、漢字習得と成文練習のみならず、読解力も同様に養えるように作られています。
漢字の「へん・つくり」の付録もあって、漢字の成り立ちに対する理解ができる内容となっています。
非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適。
また、中国人学習者にも同様です。
(1,496 円)

【国家試験受験能力到達度試験お申し込み書】

＜送付先：FAX 086-431-3482＞

施設名：

ご担当者名：

所在地：〒

電話：

FAX：

メールアドレス：

＜受験人数＞ 名

＜受験者の国籍＞ インドネシア（ 名） フィリピン（ 名） ベトナム（ 名）

＜入職期間＞ 1年（ 名） 2年（ 名） 3年（ 名） 延長（ 名）

※ 下記の料金は受験者1名あたりの金額です。

＜独立型＞ 教材費・試験・考察指導料金込み

209,033円（税込み） （ ）名 合計金額 円

到達度試験10回分 但し、再試験料金含む

＜併用型＞ 教材費・試験・考察指導料金込み

222,500円（税込み） （ ）名 合計金額 円

到達度試験5回分と、スカイプ5回分 但し、再試験料金含む

下記は、オプションとなりますので○印をつけて下さい。

① 職員用（指導管理者）教材一式 別途16,533円 必要 ・ 不要

② 学習を始める前にスカイプを用いて、候補者自身に学習の進め方や教材の使い方の流れをお伝えできます。 必要 ・ 不要

※1、申し込み書が届き次第、契約成立とみなします。

※2、なお、申し込み後に取り消した場合は、契約金額の50%を頂きますので、ご了承下さい。

※3、入金確認後、教材並びに手引書を送付致します。

但し、教材の送料は、着払いとさせていただきます。

＜連絡先＞ ことばの研究社

TEL：086-431-3481 FAX：086-431-3482

メール：kotoba_ken@yahoo.co.jp